

令和6年（2024）度アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書

I 理念

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」、また5つの基本理念「LIFE TRUTH FREEDOM GOODNESS ONENESS」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

II 最重要課題

1. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上
2. 学校改革に見合った施設設備の充実入学者の確保
3. 中学校50名以上、高等学校130名を目標とした広報戦略の強化

【学校評価アンケートの結果と分析】

年度末の2025年1月に、Classiを利用したWebアンケート方式で実施した。

（保護者）

肯定的評価が高く7割を超えるのは、「学校の理念が伝えられている」「学校生活の中で、生徒に進路や生き方について考える機会が与えられている」「進路および学習指導に関する説明会・懇談・面接が適宜行われている」「学校行事を通して多様な体験ができています」「修学旅行・学習旅行など校外活動がお子様の成長に寄与する」「担任は家庭との連絡を大切にしている」「タイミングよく情報提供されている」「お子様が家庭で学校の話をする事が多い」「先生や職員は、ふさわしい服装やきちんとした行動・態度がとれている」であった。これらのことから「理念」「学校行事」「情報提供」と言った項目で満足度が高いといえる。

一方肯定的評価が低く5割を切るのは、「宿題の量や内容は適切である」「希望する大学受験に対応できている」の2項目であった。「希望する大学受験に対応できている」については、「わからない」が約35%を占めている。

（生徒）

肯定的評価が高く7割を超えるのは、「学校の理念が伝えられている」「教材や授業法に工夫があり、丁寧でわかりやすい授業をしている」「宿題の量や内容は適切である」「自分や友人は校則を守っている」「将来の進路や生き方について考える機会がある」「進路に関する説明会・学習指導が行われている」「学校行事を通して多様な体験ができています」「クラブ活動や宗教活動は活発である」「修学旅行、学習旅行などの校外活動が自分の成長に役立っている」「学校の話や家庭で話をする事が多い」

「現在の生徒・クラスに満足している」「先生や職員は、ふさわしい服装やきちんとした行動・態度がとれている」の項目であった。

このことから「理念」「校則」「進路行事・進路HR」「学校行事」「部活動・宗教活動」といった項目では満足度が高いと言える。特に「進路についての説明会・考える機会の提供」はここ数年進路指導部が力を入れてきたところであり、2024年度も「トモノカイ」の現役の大学生と一緒に進路HRを行ってきたことが、評価されたものと思われる。

肯定的評価が5割を切る項目はなかったが、「悩みや困ったことがあったとき、先生（担任以外を含めて）に相談することができる」（約50%）、「先生は、学校で発生する問題を見逃さず対応してくれる」（約55%）、「希望する大学受験に対応できている」（約50%）の3項目は、評価が高いとはいえない。特に、「悩みや困ったことがあったとき、先生（担任以外を含めて）に相談することができる」、「先生は、学校で発生する問題を見逃さず対応してくれる」の2項目は生徒が安心して学校生活を送ることができるための必須項目であり、改善する必要がある。「宿題の量や内容である」の肯定的な項目について、保護者の評価（約46%）が低く、生徒の評価（約72%）が高かった。生徒の希望進路実現のためにも、「宿題の量や内容」について、生徒は満足していても改善する必要がある。

(教員) 「学校の教育理念・方針を十分に周知している」「学校で発生する問題を見逃さず対応している」「保護者との連絡を大切にしている」の3項目は特に評価が高かった。「学校で発生する問題を見逃さず対応している」の項目については、教員の肯定的評価（約78%）は高かったが生徒の肯定的評価（約55%）が低かった。生徒の肯定的評価が上がるよう改善する必要がある。 保護者アンケート・生徒アンケートともに、「将来の進路や生き方について考える機会がある」「進路に関する説明会・学習指導が行われている」の項目の評価が高かったことから、昨年度から力を注いだ「進路への働きかけ」に対する取組が評価されているといえる。 また、「タイミングよく情報提供されている」項目も両者からの評価が高かったが、ICT機器が効果的に利用されていることの結果によるものと考えられる。

Ⅲ 本年度最重要課題に対する施策、及び自己評価

最重要 課題	今年度の 重点目標 (Plan)	具体的な取組 計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 教育力の 向上	(1) 21世紀型教育の定着と充実に向けての教育力向上	1)英語イマージョン教育の充実	ア)イマージョン委員会を設置	ア)結果：○ イマージョン委員会を設置し定期的に会議を開催、ネイティブ教員同士の連絡・情報共有・行事へのスムーズな参加を行っている。
			イ)オリジナル教材の製作	イ)結果：○ 高校理科・数学について、ネイティブ教員が中心に、オリジナル教材を制作している。今後も継続して内容を更新していく予定である。
		2)PBL教育の推進	ア)授業研修の充実	ア)結果：△ 授業見学週間など授業に焦点化した研修を実施した。また生徒理解をテーマに学校カウンセラーの福岡先生を講師に2回の研修会を行った。今後は外部研修会への参加教員を増やすことや、教科内での自主研修の実施などさらなる研修機会の拡大が望まれる。
		3)ICT教育の充実	ア)ICTを活用した授業の推進	ア)結果：○ 校内LANがつながりにくいという課題に対し、ICT委員会がフィルタリングのクラウド化を実施し、改善されつつある。一方プロジェクターなどの機器の耐用年数が過ぎ更新が必要に応じて取り替えた。 授業でのICT活用は、ほとんどの教員が実施できている。
		4)グローバル教育の充実	ア)国際交流プログラム・短期留学の充実	ア)結果：○ カナダへのターム留学、フランス・ニュージーランドのターム留学の希望者も増えた。また、短期のコリブリ・フランス研修の2024年から再開するも生徒に人気であった。フィリピン研修も2023年度より再開し、男女共学校であるイロイロ校とへと新たに行先を変更した。

1 教育力の向上		5)進路実績の向上	イ)語学検定など、資格取得の推進 ウ)海外進学を意識したイベントの充実と実績 ア)関西学院大学との教育連携強化、指定校推薦枠を利用できる生徒の増加 イ)受験による進学実績の向上 ウ)「個々の能力にあった教育」	イ)結果：○ 英語検定は中学生全校実施を、また外部業者による英検対策講座の実施など、資格取得を推進している。 また校内で、TOEFL、フランス語検定、DELFDALF、硬筆・毛筆検定、漢字検定、ニュース検定の受験を積極的に勧め、資格取得者を増やしている。また、自習室でも英検対策講座など開設準備をしている。 ウ)結果：○ 高校生向けに、国際交流センターが主催し、定期的に海外進学・留学説明会フェアを保護者対象にも実施した。海外大学進学に興味を持つ生徒が増えた。 ア)結果：○ 指定校推薦利用者は昨年に続き40%を維持できた。連携協定校の関西学院とは、大学訪問も再開し、推薦進学者は3年連続15名程度となった。 イ)結果：○ 進路指導部は都度ガイダンスを実施し、こまめに生徒に情報提供を行ってきた。また学年会もモノカイの大学生と手を組み、生徒に働きかけを行ってきた。 進路実績としては今年度も指定校推薦・総合選抜を効果的に活用し4割が関関同立以上、6割が有名私大に進学した。一般入試でも上智・関学など有名私大への合格を果たし、更に国公立合格者は3名となり、海外大学進学者も4名と飛躍した。 ウ)結果：○ 生徒の希望に沿った進路指導を、担任・学年団を中心として実施してきた。また進路指導部は大学の情報収集に努め、生徒及び担任に情報提供を行った。結果として生徒は文系・理系・国際系・芸術系など自分が希望する幅広い進路に進学している。
		6)教員個人の教育力向上	ア)教員対象授業研修の実施 イ)若手教員向けの教員研修の充実	ア)結果：△ 全員を対象とする授業見学週間、生徒理解研修を実施するが、個々が自主的にとりくむ研修参加はまだ少ない。外部研修の紹介など、参加を勧める必要がある。 イ)結果：△ 中高連の部会が実施する生徒指導・人権教育の外部研修には参加してもらったが、校内の若手教員のみを対象とした研修を行うことができていない。
	(1) 学校改革に見合った組織と施設設備の充実	ア)中高男子サッカー部長期計画	ア)中高男子サッカー部についての長期計画を検討する	ア)結果：△ 中学校男子生徒におけるサッカー部員の割合が高いため、2023年～2024年度入試にかけ7名程度と入学者をおさえ、かつサッカー部以外の男子生徒も10名近く入学するな

2 施設設備の充実		イ)教室の整備 ウ)環境の整備と充実 エ)小学校との連携	イ)クラス数増に見合った教室の整備 ウ)部室、更衣室、ICT環境等の整備と充実を行う エ)様々な面で、併設小学校との情報共有、連携を行う	どバランスは改善した。しかし、中学部会で部員人数削減で2チーム制が難しくなった。グラウンドでの窮屈さなど適正規模については継続して検討が必要である。 イ)結果：△ 中学校2クラス、高校4クラスに対応できる普通教室・設備を整備してきたが、2024年度は整った環境が提供できた状況である。また設備（エアコン・プロジェクター・黒板）の更新が課題である。 ウ)結果：△ 近年の温暖化による気温上昇に対し第二体育館・同更衣室の暑さ対策が急務である。2023年度は体育館更衣室の断熱化を行ったが、冷房化には電源不足の課題があり大規模な工事が必要である。第二体育館も見積もりをとり施設整備の優先課題とし、2026年度実現に向けて準備している。 その他調理室・PC教室機器の更新など計画的な設備更新が必要である。 エ)結果：○ 中学校・高等学校の校長が小学校校長を兼ねる形で情報共有・連携を目指し、一定の成果はあったと思われる。教員の授業提供の連携も盛んになった。また、生徒間同士（海外のアサンプションの研修生も含め）も連携し合う機会が増えてきている。
3 入学者の確保・広報戦略の強化	(1) 中学校50名 高等学校130名 を目標とした広報戦略の強化	1)Webページによる情報発信力の強化 2)説明会の目的を明確化と内容の充実	ア)紙媒体によるイベント告知からWebページへ誘導する流れを確立する。 イ)Instagramによる様々な学校情報の発信 ウ)広報戦略会議の小・中高連携 ア)「生徒を見せる」企画の立案	ア)結果：△ イベント毎にチラシを作成し、塾・公立中へ配布し、知名度向上を図った。 中学入試については効果が薄く、方法等を検討する必要がある。 イ)結果：○ 学校ブログのこまめな更新や、学校のInstagramによる発信、パンフレットと連動したWebの更新など、ネット上での情報発信の充実を目指した。 ウ)結果：○ 併設小児童保護者だけを対象としたオープンスクールを5月に企画した。併設小学校からの入学者は27名と横ばいであった。小学校の保護者会で入試説明会を実施していく機会を持つ。 ア)結果：○ 在校生による学校説明、生徒による歓迎パフォーマンス、お手伝い生徒の起用、公開授業の実施などいずれも参加者に高評価を得た。

3 入学者の確保・広報戦略の強化			イ)イベント回数の増加	イ)結果：○ 月に1回を目安に広報イベントを企画し、10月以降は小規模なイブニング説明会も実施し、総参加者数は昨年度とほぼ同じ数を確保した
		3)内部満足度の向上	ア)修学旅行・生徒会行事の活性化	ア)結果：○ 体育祭・合唱コンクールを中高生が一堂に会し学校行事を実施した。チャリティ・デーでも模擬店を初め色々な取り組みが自主性を持ってできている。宿泊行事も学院の強みを生かし、高校はポーランド、中学校はベトナムに行き、世界を見る・知る経験を行う。 留学関係もターム留学、2週間の研修だけでなく、個人留学のニーズも増えている。
		4)入試制度の改善	ア)中学入試結果	ア)結果：△ 入試制度改善としては、教科型・英語型の計3回の受験チャンスとシンプルな制度とした。(塾から対策が立てにくいと不評であった思考力入試は廃止した)受験者数は昨年度から11名減の51名となり、入学者も昨年度より4名減の48名となった。
			イ)高校入試結果	イ)結果：△ 設備面の制約から2024年度は4クラス130名を目標に募集活動を行い、受験者総数は127名(併設中除く)となった。しかし、入学者は併設中からの進学者を含め96名となり目標には届かなかった。数年かけて取り組んできた近隣中学校との関わりと説明会参加者の出身中学校への丁寧なフォローの試みを再度検討する。

【学校関係者評価】

1. 入学者について

高校入学者の減少に対しては、募集地域の拡大や広報活動のさらなる活性化を通じて、2025年度の募集定員を満たす戦略が示された。スモールサイズの学校ならではの有利さを生かし、近隣私学にはできないきめの細かい「個別最適化」の教育を展開していくことが、今後アサンプション国際中高等学校が発展していく道であることが説明された。

併設小学校からの入学者に関しては、小中高連携をさらに密にすることで、中高の教育活動を小学校の児童・保護者の方々にさらに理解を深めていただき、志願者増につなげていくべきであるという意見をいただいた。今後は、アサンプション国際中高等学校が取り組もうとしている生徒たちの非認知能力の向上に関わる、教育活動の進化と、本校の強みである英語教育・国際理解教育をさらに推進することによって、生徒の第一志望進路実現につなげ、それが新たな募集につながるようにしていきたい。

2. 教育力の向上

つけてほしい英語力の指標として、高校2年生終了時までにはイングリッシュコースは実用英語検定試験1級または準1級、アカデミックコースは2級獲得を定めていると説明があった。

今後、海外大学進学を目標にする生徒が増えることが予想されるので、ILETS や TOEFL の対策講座を希望する意見もあった。現在実施されている数学塾は評価が高く今後も継続してほしいという意見も多数あったが、同時に英語力、数学力だけではなく、国語力を上げるための論理・読解の講座もあるとありがたいとの意見もあった。